

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	I C T活用教育	提出日	令和3年5月11日
------	-----------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>教育目標</p> <p>「多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。</p> <p>②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。</p> <p>③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。</p> <p>④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>目標達成のための令和2年度重点目標</p> <p>(3) 学びを創造する力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に仲間とともに学ぶ喜びを感じると同時に学ぶ責任があることの意識を高める。 ・I C T活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。 ・B Y O Dの成果と課題を検証し発信する。 ・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く。 ・専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。 <p><数値目標></p> <p>○iPad を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになった生徒の割合 (学校全体、学校評価アンケートより H30 67.7% R1 -69.7%) R2 目標 60%以上</p> <p>○交流学习を通して、コミュニケーション能力が向上した生徒の割合</p> <p>※2年生対象のアンケートは、R1年度から実施 (情報科学科アンケートより R1 -68%) R2 目標 80%以上</p> <p>○iPad (タブレット型端末)を活用して授業を実施した教員の割合(県活用状況調査及び教育の情報化の実態調査より、H30 68.8%・7月現在 R1 -71.4%) R2 目標 75%以上</p> <p>※学びの集団づくりWGで、数値目標状況について検証を行い、改善策を検討する。</p>	<p>「classi (基本サービス)」と G-Suite を導入し、双方向の通信を全校で確保した。授業研究をweb 視聴できるアプリ、授業支援アプリ (ロイロノート等) を導入して活用研修会を随時開催し、授業への I C T 活用の機運が高まった。また iPad 等の端末を全教員へ配付を目指して整備し、授業で I C T を活用する教員増につながった (2月末で教員への iPad 等配付率 81%)。</p> <p>I C T 活用授業研究会では全ての公開授業 (8講座) と研究授業で I C T を活用した。専門教科と共通教科の連携は、工業と物理、農業と生物で通年の連携をし、学びを深めている。</p> <p><数値結果></p> <p>○iPad を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになった生徒の割合 R2 69.2%と目標達成</p> <p>○I C T を活用した交流学习を通して、自ら進んでコミュニケーションが取れるようになった生徒の割合 R2 87.6%と目標達成</p> <p>○iPad (タブレット型端末)を活用して授業を実施した教員の割合 R2 79.1%と目標達成</p>

3 実施事業

【高等学校課事業】

(1) 外部人材活用事業

・情報科学科のデザイン・プログラミング等の学習において専門の講師から知識や技術を学ぶことができる。

→情報科学科のデザイン・プログラミング等の学習において、専門の講師から知識や技術を学び、ノベリティグッズのデザインをテーマとして、デザインの方向性、行程作業等の指導を受けた。

(2) 高大接続改革対応事業 アクティブ・ラーニング推進のための講師派遣事業

・協同して学ぶ力や主体的に学ぶ力、言語活動能力の充実を目指す。iPad等を有効に利用したアクティブラーニングや協同学習を推進するための研修や研究会等を通して指導力向上を図る。

→iPad活用公開授業研究会（協同学習公開授業研究会と合わせて実施）と、校内ICT活用研修会（G-Suite活用研修会、classiとアクティブラーナー活用研修会、ロイロノート活用研修会）を実施した。

【独自事業】

(1) ふるさと交流事業 iPad・プログラミング交流事業

・生徒が、習得した学習内容をアウトプットできる機会として、R1年度は小学校、特別支援学校との交流を、引き続き実施した。特に、小学校との交流では、本校の充実した施設の有効活用という観点から来校してもらう試みをおこなった。R2年度も継続する。

→情報科学科による小学校および特別支援学校とプログラミング交流

・鳥取養護学校との交流は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンライン交流を実施した。

・湖山西小学校とのプログラミング交流は本校にて実施し、小学校の先生方からも好評であった。

緑地デザイン科による小学校等との園芸交流

・小学校とは、湖山西小学校、湖山小学校の2校で実施した。また、鳥取聾学校小学部との交流は、リモートでの交流を実施し、リモートで簡単な手話を用いながらの交流を行った。

(2) 指導力向上事業

・アクティブ・ラーニングの推進 ※高等学校課事業と同様

→iPad活用公開授業研究会（協同学習公開授業研究会と合わせて実施）と、校内ICT活用研修会（G-Suite活用研修会、classiとアクティブラーナー活用研修会、ロイロノート活用研修会）を実施した。

・ICT活用（iPad活用・BYOD（Bring Your Own Device）・デジタル教材活用を含む）研究のための視察・研修・成果の公開

→今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により先進校視察を実施しなかった。

・環境の整備

ストレスなく授業で利用しやすい環境を年次進行で整える。特に、H31から教室のwi-Fi環境の整備を行ってきたが、機器の関係で繋がりにくい箇所があり、これを改善していく。また、R2年度は、教員へのiPad貸与台数は22台（情報学科、家庭科、数学科、理科等）であるが、これを増やすことができないか、ニーズや予算面を含め、検討していく。

→様々なアプリケーションを導入し、ICTを活用した授業研究を進めた。またwi-Fi環境の整備も行った。教員へのiPadまたはClomebookの貸与を進め、R2年度末で、iPad貸与台数は25台、Clomebook貸与台数は20台であった。

4 総合所見（成果・評価）

ふるさと交流事業では、情報科学科の生徒が鳥取養護学校との交流をオンラインで実施した。オンラインにおいても準備してきた内容を交流相手にしっかりと伝え、有意義な交流ができ、コミュニケーション能力の向上につながった。小学校との交流では、児童に合わせた教え方を実践し、小学校の先生からも好評であった。緑地デザイン科の生徒と鳥取聾学校小学部との園芸交流でも、コロナ禍により2回のうち1回をリモートにより行うことができた。

指導力向上事業では、ICT活用研究のための先進校視察は実施することができなかったが、ベネッセのICT

活用研修会へリモート参加し、またアクティブラーナー導入により研修動画視聴が可能となった。

ICT 活用公開授業研究会では、ICT を活用した授業の公開と、数学、農業の研究授業、県教育センター 教育企画研修課 係長 岩崎 有朋氏を講師に迎えて「ICT を活用した学習者主体の授業づくり」をテーマに講演をいただいた。リモートでの授業や、一人一台端末も視野に入れて研修することができた。

※枚数任意